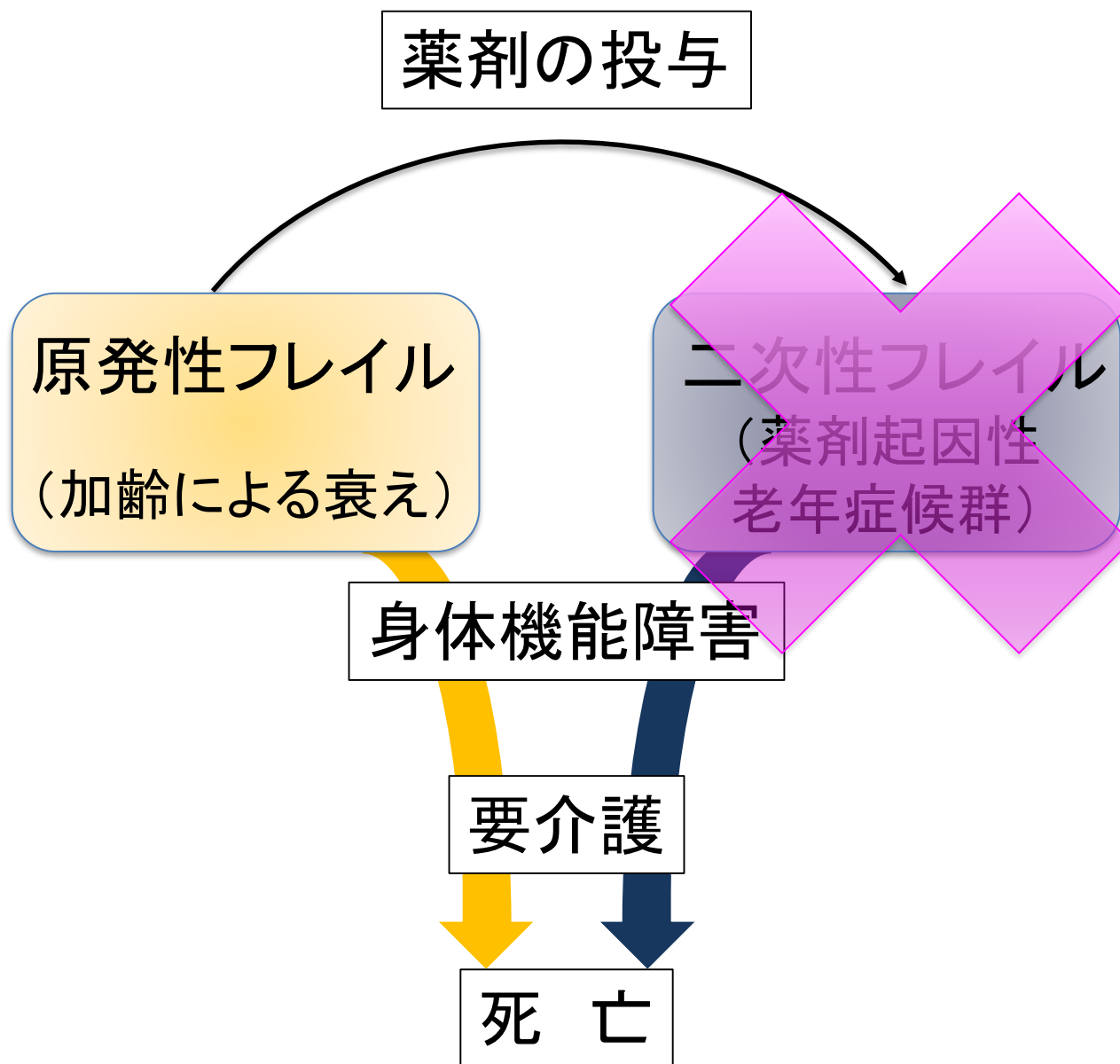


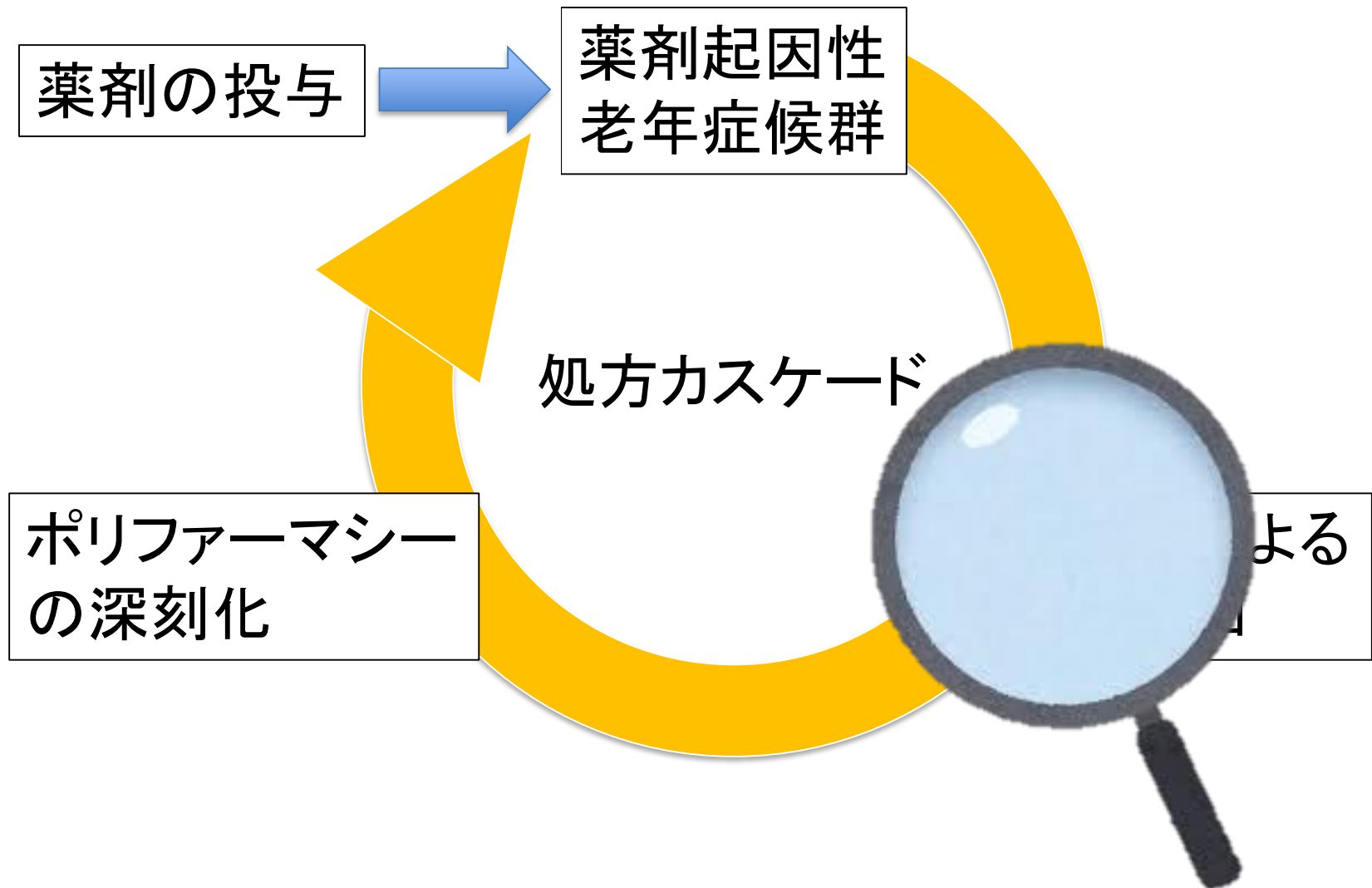
入院患者に対する客観的睡眠状態 把握の取組み

一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん
医薬情報・研修・研究室
室長 深見 伸一

薬剤部として避けたい事象



モニタリングの必要性



最近は睡眠計も色々あります



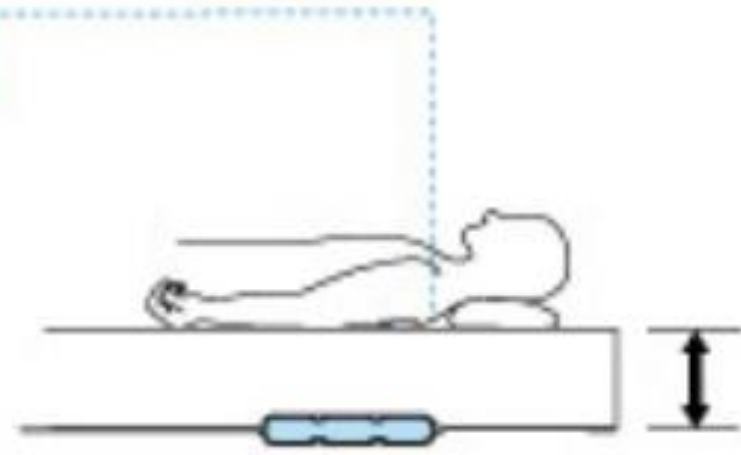
スマホでもできます

当院ではあまり適当ではない？

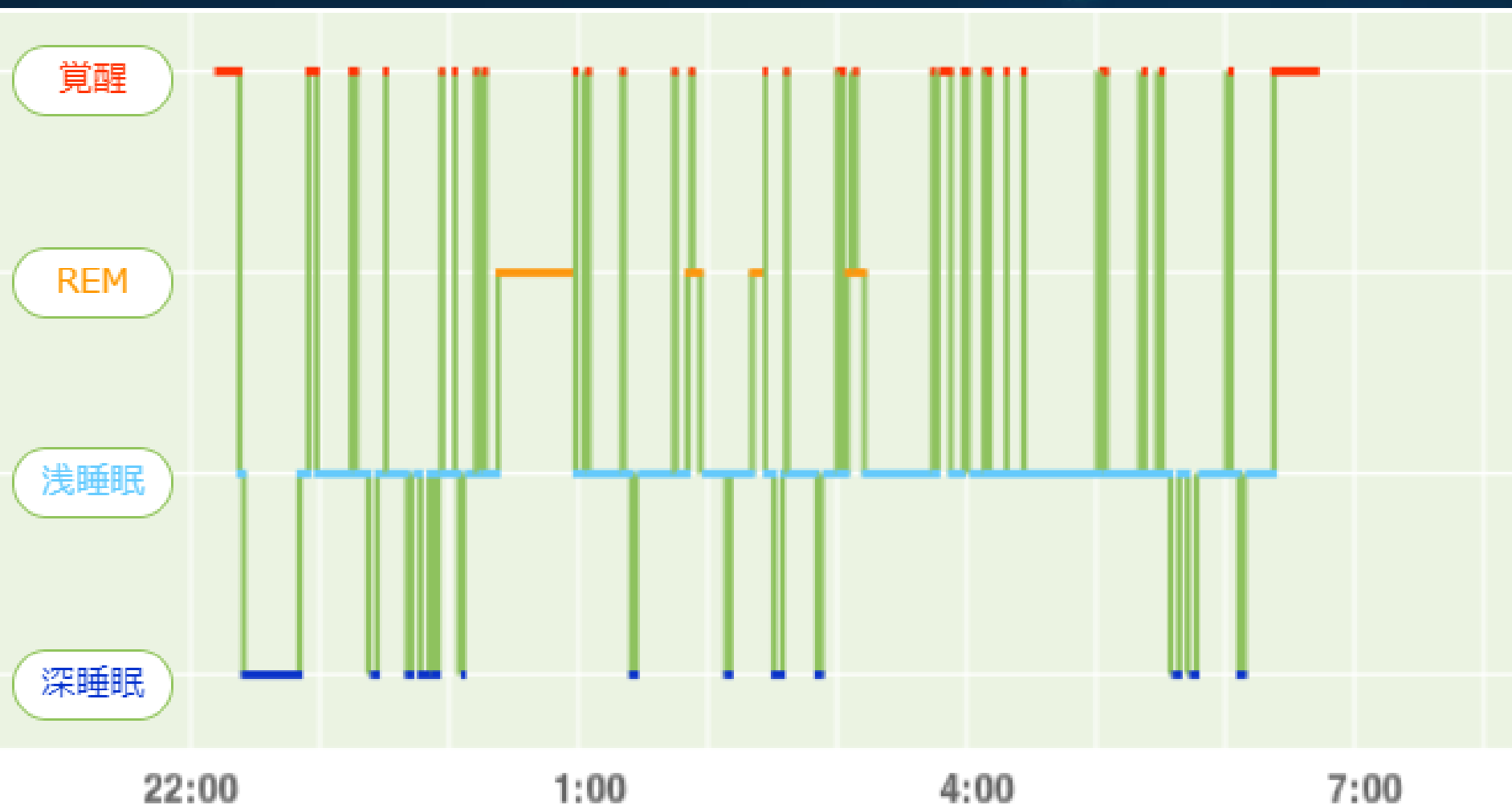
マットタイプ睡眠計



肩の位置

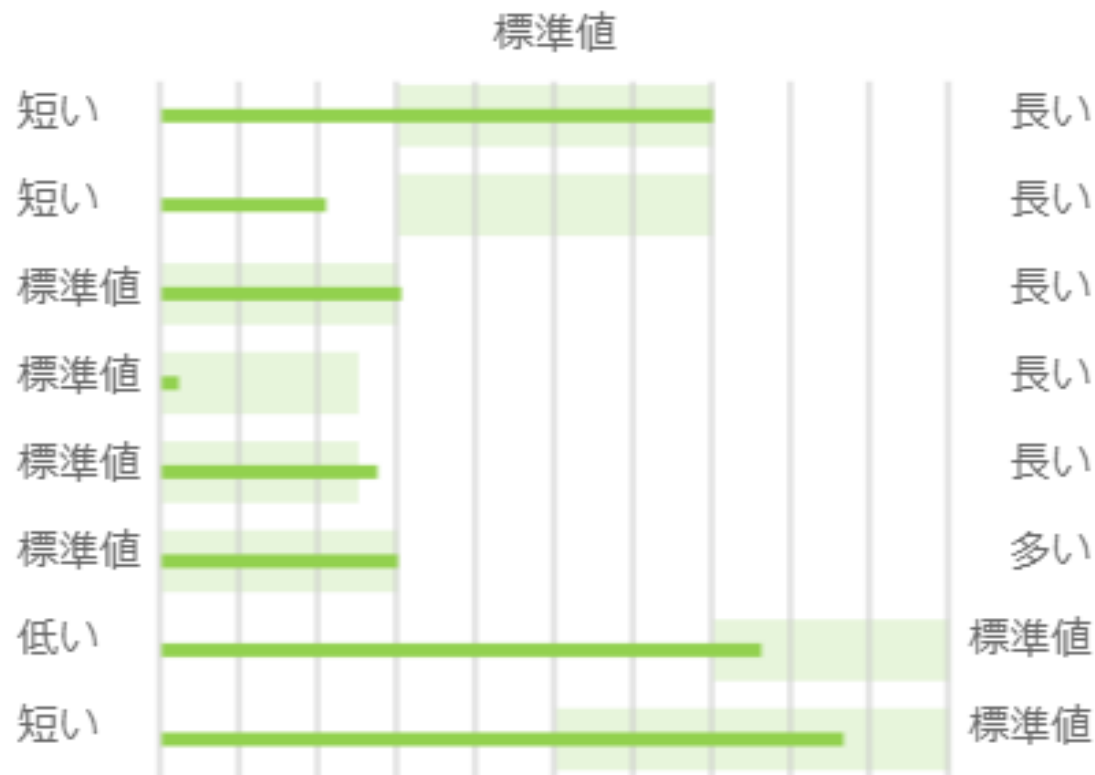


こんな感じのデータが取得できます



こんな感じのデータが取得できます

睡眠時間	08時間00分00秒
睡眠周期	01時間12分36秒
中途覚醒時間	00時間30分30秒
深睡眠潜時	00時間02分00秒
入眠潜時	00時間11分00秒
体動頻度	15回
睡眠効率	94%
深睡眠時間	01時間00分30秒



こんな感じのデータが取得できます

64点

「標準睡眠タイプ」

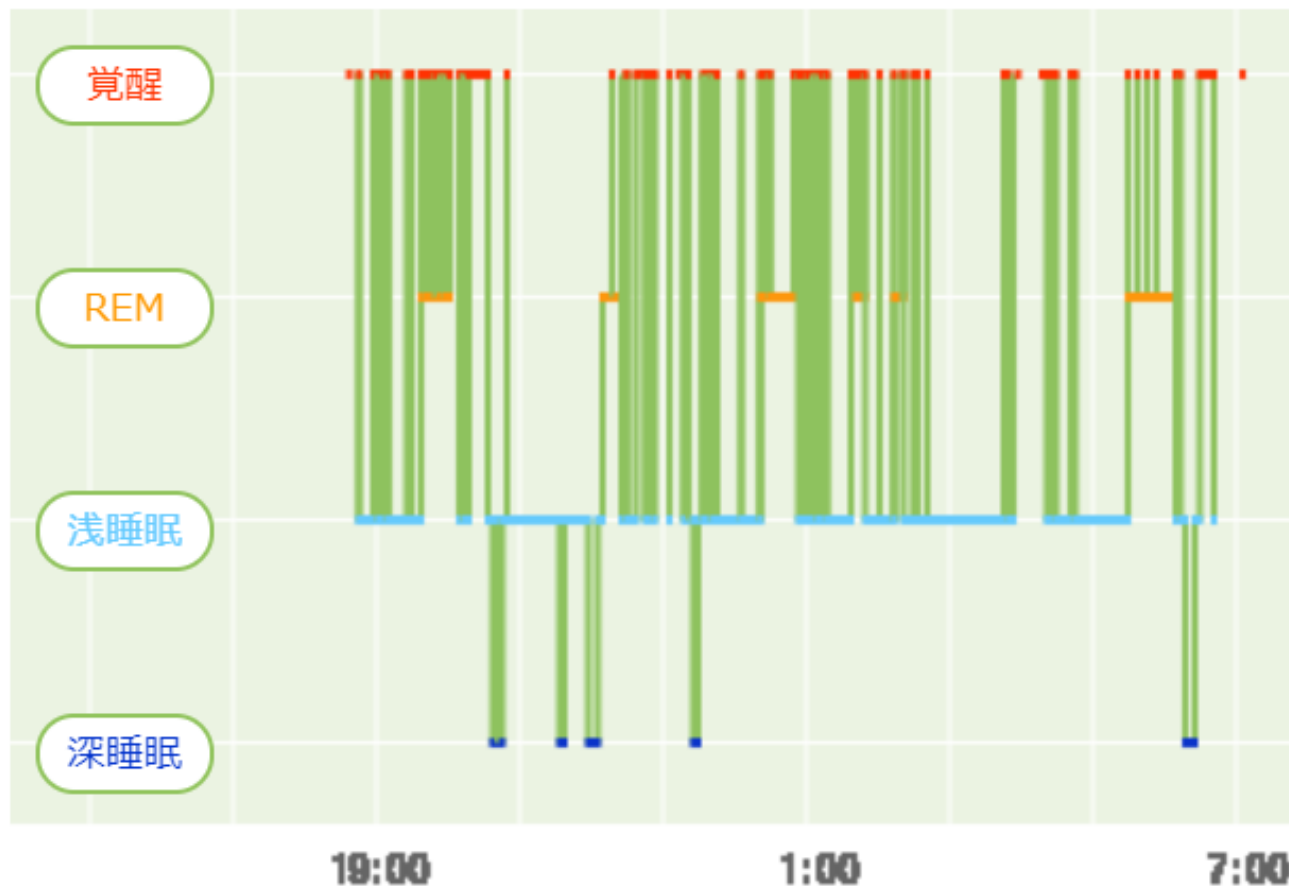
深い睡眠の量、中途覚醒ともに標準的な睡眠です。

分析ダイアグラム



患者例A睡眠データ

・90代、男性、アルツハイマー型認知症



覚醒 18.2 %

REM 19.3 %

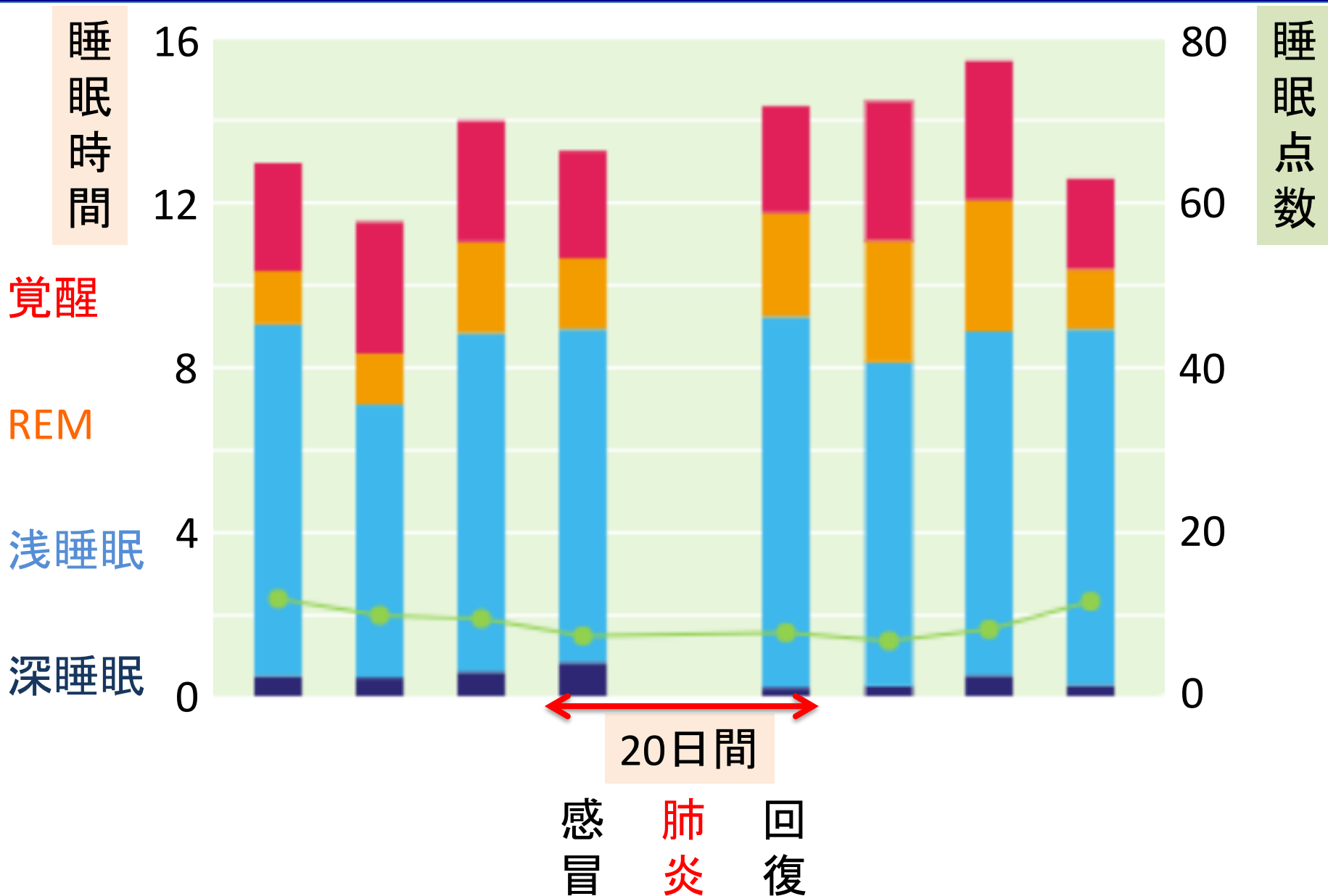
浅睡眠 58.9 %

深睡眠 3.7 %

症例A(処方)

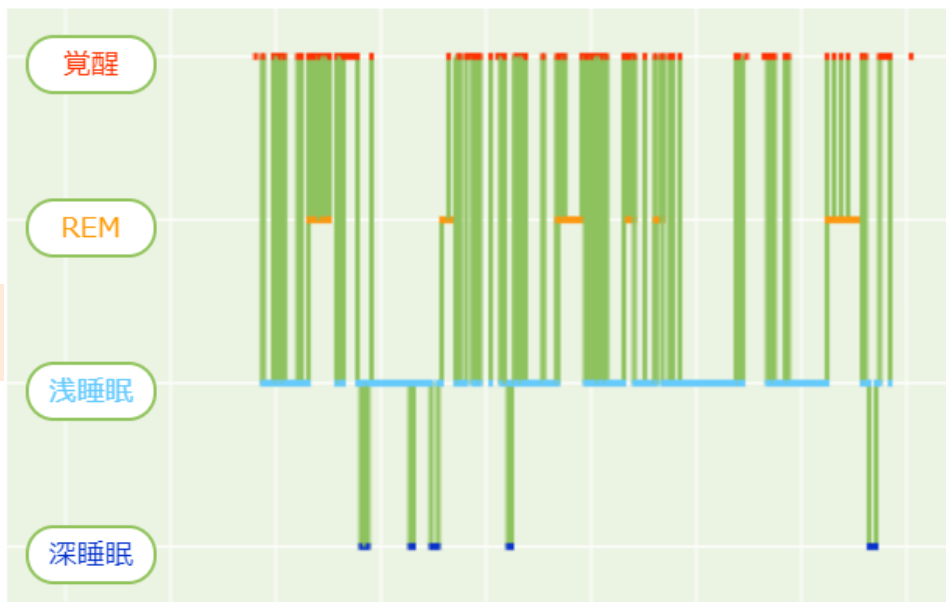
ガスコン散 10%	120mg	
パンテチン細粒 20%	600mg	
トリメブチンマレイン酸塩錠 100mg	3錠	
ビオスリー配合OD錠	3錠	
マグミット錠 500mg	3錠	1日3回毎食後
アルファロール散 1 μ g/g	1 μ g	
アムロジピンOD錠 2.5mg	1錠	1日1回朝食後
ピコスルファートナトリウムドライシロップ 1%	2.5mg	1日1回夕食後
ベンザリン細粒 1%	5mg	
トリアゾラム錠 0.25mg	1錠	
ゾルピデム酒石酸塩OD錠 10mg	1錠	
センノサイド顆粒 8%	48mg	1日1回就寝前
ニトログリセリンテープ 27mg	1枚	1日1回 1回1枚

患者例A週平均睡眠データ



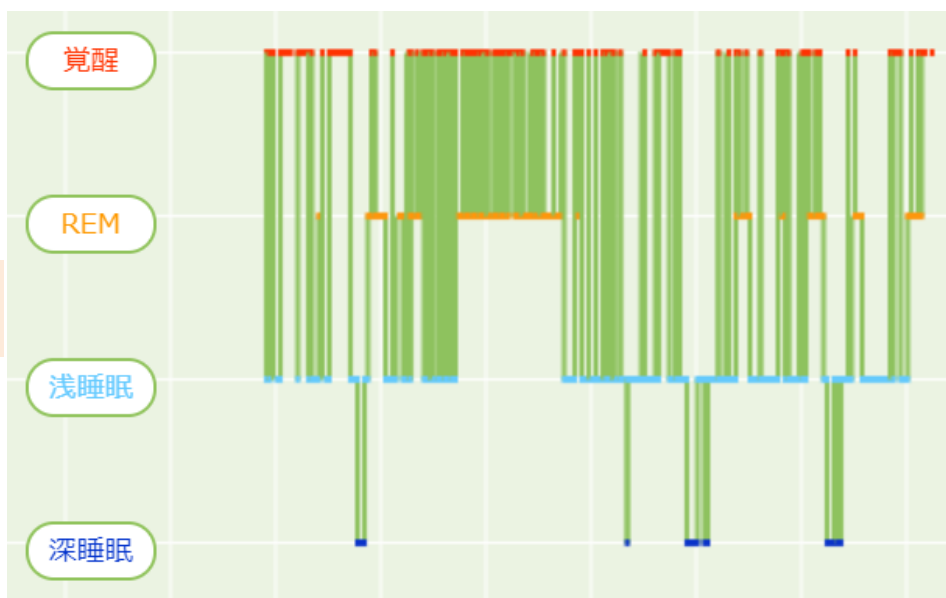
患者例A1日睡眠データ

肺炎前



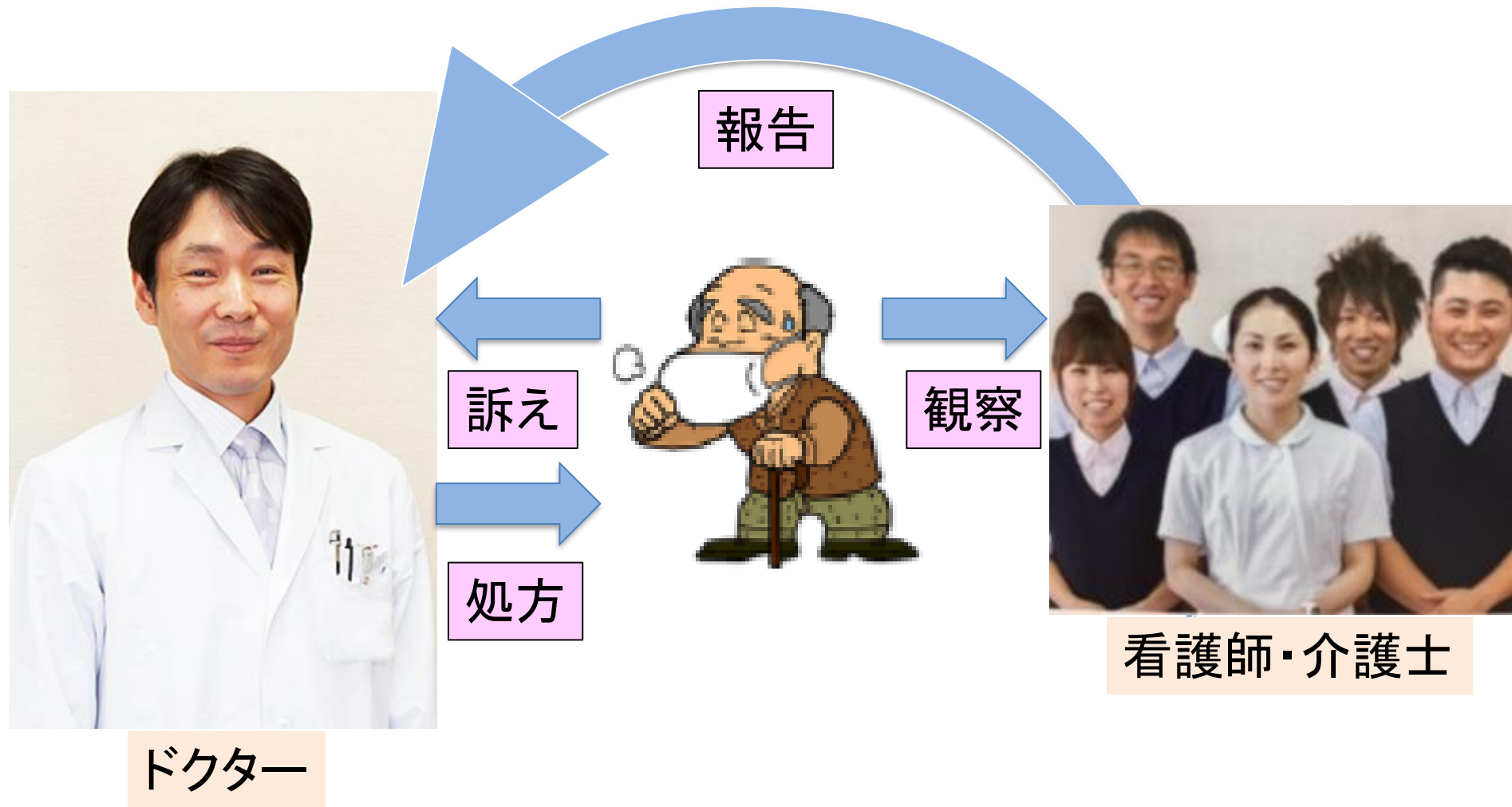
覚醒	18.2 %
REM	19.3 %
浅睡眠	58.9 %
深睡眠	3.7 %

肺炎後

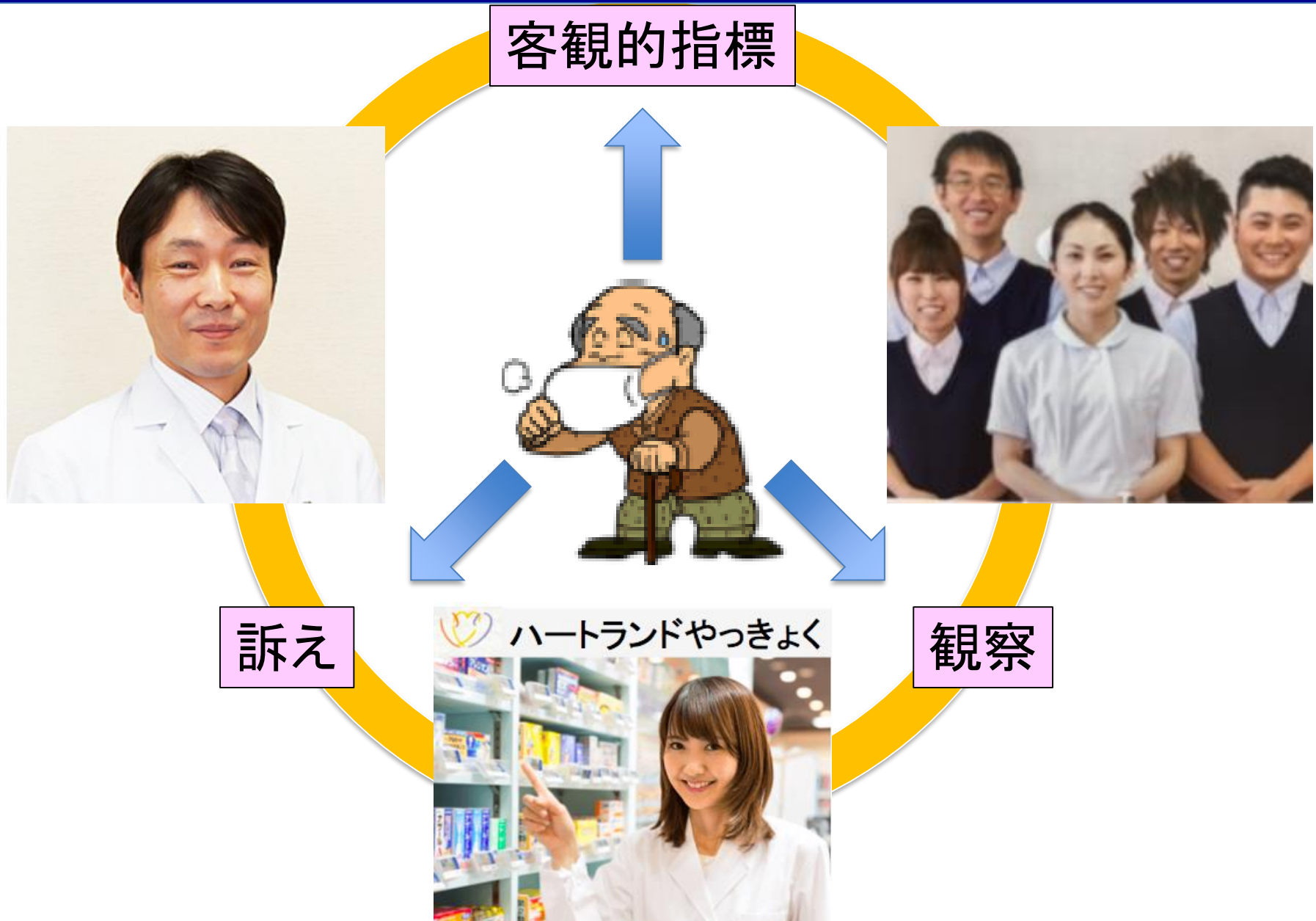


覚醒	20.2 %
REM	15.7 %
浅睡眠	57.7 %
深睡眠	6.5 %

これまでのモニタリング



客観的指標を介した多職種連携



まとめ

- ・客観的なデータの存在は、多職種間のコミュニケーションを向上させる。
- ・睡眠のような主観的的症状は、客観的指標により長期漫然処方を防ぎうる。
- ・結果として、ポリファーマシー化の進行が抑制され、入院時のQOLが向上する。
- ・今回は予備的データのサンプルとして認知症をピックアップしたが、他疾患にも広げていきたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。